

看護職員募集のご案内



赤十字は、あなたの力を必要としています



長岡赤十字病院

長岡赤十字病院の歴史を紐解く

●長岡赤十字病院の立地とその歴史

雪国として知られる新潟県長岡市は、日本海に面して南北に延びる県のほぼ中央に位置しています。人口は約28万人で東部に東山連峰、西部には西山丘陵地が連なり、日本一の大河信濃川が市の真中を南北に貫流しています。8月の長岡まつりは毎年、信濃川河川敷で日本有数の花火大会が催されます。

病院は、JR長岡駅から車で15分、千秋が原に位置し、近隣の「千秋が原ふるさとの森」には県立美術館、芸術ホール、長岡造形大学などの文化施設に加え、大型ショッピングセンターも近くにあり利便性が高く生活しやすい場所といえます。また隣接する信濃川堤防は、桜堤が拡がり市民の憩いの場となっています。このように、恵まれた周辺環境に立地している病院ですが、その歴史は古くは明治初期の「米百俵」にまで、源をさかのぼることができます。

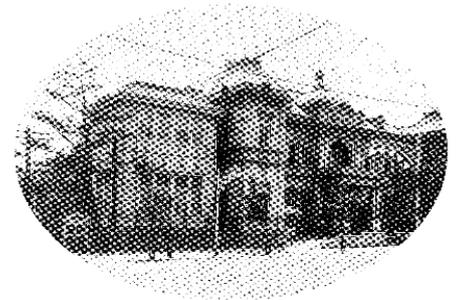
明治3年 国漢学校 設立

長岡藩藩士小林虎三郎らによる米百俵の売却金にて
洋楽局と医学局を有する国漢学校が建立された。

明治6年 財団法人長岡病院として再スタートを切る。

昭和6年5月1日

日本赤十字社に移管され、日本赤十字社
新潟支部病院へと変わる。



昭和16年5月1日 名称を日本赤十字社新潟支部 長岡病院に改称

昭和18年2月1日 名称を長岡赤十字病院に改称

昭和20年4月 舞鶴海軍病院長岡赤十字病院に改称

昭和58年4月 新潟県で最初の救命救急センターを開設

平成9年9月 現在の千秋が原に新病院を移転開院

長岡赤十字病院が背負う使命

●赤十字とは

アンリー・デュナンは、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノにおいて、4万人にもものぼる死傷者の悲惨な有様を目撃しました。村人たちと協力して戦場に倒れていた負傷者を教会に収容するなど、懸命の救護にあたりました。デュナンは自ら戦争犠牲者の悲惨な状況を語り伝えると共に、①戦場の負傷者と病人は敵味方の区別なく救護すること、②そのための救護団体を平時から各国に組織すること、③この目的のために国際的な条約を締結しておくこと、の必要性を訴えました。この主張こそが赤十字思想の誕生です。

赤十字の活動は、傷病者の救護をはじめ、一般住民の災害時の人道的活動が基本ではありますが、近年、国際的な支援・協力活動も重要な役割となっています。また自然災害も多く発生しています。このような状況の中、緊急支援から人道ニーズへの取り組みまで、活動は多岐に渡ります。

●日本赤十字社としての使命

「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、命と健康、尊厳を守ります」

国際赤十字・赤新月運動の基本原則（赤十字の7原則）

- ①人 道：人間の命と健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます
- ②公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します
- ③中 立：全ての人の信頼を得て活動するため、一切の争いに加わりません
- ④独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます
- ⑤奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します
- ⑥単 一：国内で唯一の赤十字社として、全ての人に開かれた活動を進めます
- ⑦世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します

●長岡赤十字病院の基本理念・方針

基本理念

私たちは命と健康に向き合うことを医療の原点とします。

基本方針

- 1 患者さんの人権を尊重し、良質の医療を提供します。
- 2 地域の皆様に信頼される病院づくりに努めます。
- 3 地域医療に寄与し、安心できる医療の提供に努めます。

長岡赤十字病院の概要

●長岡赤十字病院の機能概要

当院は新潟県の赤十字医療活動の拠点として、また長岡市を中心に中越地区80万人を診療圏に持つ基幹病院として、急性期医療から慢性期、在宅医療まで幅広い事業を行っています。これらの診療機能を果たすため、さまざまな国や県からの指定を受け、高度医療機器をはじめとした施設設備を有しています。

(当院の概要)

病床数	592床
	(一般病棟582床 感染症病棟10床)
1日平均外来患者数	1,500名
1日平均入院患者数	500名
職員数	1,344名
医師数	159名
看護師・助産師・准看護師	773名
看護補助者	68名
事務職員数	117名

(2020年4月1日現在)

(国や県から受けている施設指定 抜粋)

- 臨床研修指定病院
- 救命救急センター
- 地域医療支援病院
- 総合周産期母子医療センター
- 新潟県基幹災害拠点病院
- 非血縁者間骨髄移植・採取施設
- エイズ治療拠点病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 新潟県DMAT指定医療機関
- 新潟県ドクターヘリ事業基地病院



長岡赤十字病院 看護部について

●目指す赤十字の看護師像

赤十字の看護師は、人道を基本とした赤十字の7原則に基づき、地域・社会が求めるヘルスケアサービスを先見性・創造性を持って提供するとともに、赤十字事業の実践者として社会に貢献し、赤十字の理念である人道を具現化することが期待されます。多様化の時代において、赤十字の看護師として地域と協働・連携できる能力、グローバルな視点を持ち活躍することが望まれます。

●当院看護部の理念・方針

看護部理念

一人ひとりを大切に、命と健康に向き合う看護を提供いたします

基本方針

- 1 安全な看護を実践し患者さんに安心と満足を提供します
- 2 地域と連携し、その人らしく生活できるよう切れ目のない看護を提供します
- 3 チーム医療を推進し継続した質の高い看護を提供します
- 4 看護職として積極的に病院経営に参画します

●看護の提供体制

*看護体系など： 看護配置 7：1 急性期看護補助体制加算

*看護方式：

チーム・ナースング制を基本とする。ただし患者さんの状況等に応じてプラーマリーナースング、ディパートナースングなどの体制を取り入れている。

*看護師の勤務体制：3交代制

日勤－8:30～17:00 準夜勤－16:00～0:30 深夜勤－0:20～8:50

●チーム医療の推進

医師・看護師・薬剤師・コメディカルなど様々な職種で編成されたチームをつくり、定期的な回診コンサルテーションを行い、患者さんにあったサポートを行うほか、学習会などを通じて職員の教育活動を行っています。看護部は認定看護師・専門看護師を育成し、それぞれの分野やチーム医療の一員として、より専門的な医療・看護を実践し、質向上に努めています。

【さまざまなチーム】

- ・栄養サポートチーム（NST）
- ・褥瘡対策チーム
- ・緩和ケアサポートチーム
- ・感染対策チーム（ICT）
- ・呼吸ケアサポートチーム
- ・院内急変対応チーム（RRT）
- ・せん妄認知症ケアチーム
- ・倫理コンサルテーションチーム
など

多くの認定看護師・専門看護師が活動しています

- ・16分野の認定看護師
- ・がん看護専門看護師

詳細は病院ホームページをご覧ください

●当院看護部の教育方針

1. 科学的根拠に基づいた看護実践を行い、省察する実践者を育成する

＊省察とは自らの経験を振り返り、学びを明確にしながら実践に取り組み続ける過程

2. 人間性豊かな思いやりのある行動ができる看護職員を育成する

＊思いやりのある行動は赤十字の基本原則である「人道」を具現化したものである

当院の理念に基づき、患者さんや地域の方々に質の高い看護サービスを提供できる看護職員の育成に努めています。また「赤十字の施設のキャリア開発ラダー」に基づき、個々の看護師の学習段階に応じたプログラムを準備、専門職業人としての発達を支援しています。

【赤十字施設のキャリア開発ラダー】

看護実践者としてステップアップしながら、自分のめざすキャリア開発の方向を確認しながら進みます。

	実践者	管理者	国際	教員
V	病院単位で活躍できる者	管理Ⅳ	国際Ⅳ	教員Ⅳ
		管理Ⅲ	国際Ⅲ	教員Ⅲ
Ⅳ	看護部単位活躍できる者	管理Ⅱ	国際Ⅱ	教員Ⅱ
		管理Ⅰ	国際Ⅰ	教員Ⅰ
Ⅲ	病棟単位で活動できる者 リーダー			
Ⅱ	自立して看護活動ができる者（病棟内）			
Ⅰ	指導や助言を得ながら看護活動ができる者			

●新人看護職員の育成

1人の新人に1人の決められた先輩看護師がつき、学習支援や精神的なサポートを行うプリセプターシップを導入しています。プリセプターとなる先輩看護師向けの研修も実施しており、学びながら新人をサポートします。看護実践能力レベル別に研修が計画されており、集合研修(OffJT)での学びや自己学習を、看護実践に結びつけながら経験を重ね、看護技術・知識の習得ができるように支援しています。

(研修の詳細は病院ホームページをご覧ください)

赤十字の職員として

日本赤十字社は地震・台風・豪雨・火災などの災害や大事故に備えて赤十字病院の医師・看護師・薬剤師・事務職員を中心に編成する救護班を全国で約500班(約7,000人)整備し、いついかなる時でも出動できる体制をとっています。

赤十字病院であり、新潟県基幹災害拠点病院である当院も、DMAT班のほか、赤十字救護班を常備し、万が一の災害発生時に迅速に対応できるよう、教育・訓練を行っています。

【長岡赤十字病院のこれまでの主な災害救護活動】

- ・ 阪神淡路大震災
 - ・ 中越大震災
 - ・ 中越沖地震、能登沖地震
 - ・ 八箇峠 トンネル事故
 - ・ 御嶽山救護活動
 - ・ 熊本地震
 - ・ 平成16年新潟・福島豪雨(7.13水害)
 - ・ 平成18年豪雪(津南・秋山郷)
 - ・ 岩手・宮城内陸地震
 - ・ 東日本大震災
 - ・ 平成27年9月関東・東北豪雨
 - ・ 平成30年7月豪雨災害
- ほか



待遇

日本赤十字社職員は、国家公務員の給与体系に準拠した形で給与を決めています。
職歴がある場合、それに応じて基本給の加算を行います。

1. 基本給 新卒時の給与月額（助産師、看護師）
 - ・短大、専門学校卒 209,800円
 - ・助産師および看護師（大学卒） 215,200円
2. 手当
 - ・通勤手当：自宅から病院までの通勤距離に応じて支給する
(ただし、月当たり55,000円が上限)
 - ・住居手当：アパート等を借りている場合は、家賃に応じて手当を支給する
*職員名義の借家、借間、持ち家が対象
(借家借間の場合、限度月額28,500円)
 - ・期末勤勉手当（ボーナス）：夏と冬の年2回の支給
(令和元年度実績 2回合わせて3.95か月分)
 - ・退職金制度：1年以上勤続した場合、退職一時給与金が支払われる
 - ・その他
扶養手当、時間外手当、深夜手当、特殊勤務手当、寒冷地手当 等
給与支給日：毎月16日 定期昇給：年1回
3. 休日・休暇
 - ・休日：日曜日、土曜日、祝祭日、創立記念日(5月1日)、年末年始
 - ・夏季休暇：5日間（6月から9月までに特別休暇2日間と有給休暇を組み合わせることで取得可能）
 - ・年次有給休暇：24日
 - ・その他の特別休暇：冠婚葬祭休暇、介護休暇、産前産後休暇、育児休暇 等
4. 院内保育所：0歳から3歳児の受入れ 週2日の夜間保育あり
5. 育児休業制度（最長3歳に達する日まで）および育児短時間制度の充実
6. 定年退職：62歳
7. 健康診断：春と秋に年2回定期健診を実施
8. 各種保険：雇用、労災、健康、厚生、財形、厚生年金基金
その他：日赤グループ保険、日赤積立年金等
9. 職員寮：フローリング・ユニットバス・エアコン付 2棟60室あり
 - 負担額 A棟 23,000円（8畳）
 - B棟 18,000円（6畳）
 - 駐車場 1台 5,000円/月

(2020年4月1日現在)

福利厚生について

病院には職員で構成される互助会（院友会）があります。

互助会による福利厚生は主に以下のような行事等があります。

- 1泊2日の旅行
- 職員親睦スポーツ大会（各種スポーツ4種類の大会を開催）
- 納涼会
- 長岡まつり民謡流しへの参加
- 忘年会
- 赤十字施設職員同士で日ごろのトレーニング成果を競い合うスポーツ大会（軟式野球、バレーボール、卓球、硬式・軟式テニス、フットサルなど）
- 職員で構成するクラブ活動（軟式野球、バレーボール、卓球、硬式テニス、フットサル、ゴルフ、漕艇、バドミントン、ダイビングクラブなどの運動クラブのほか茶道、華道、無線などの文化系クラブもあります）

お問い合わせ先

〒940-2085
新潟県長岡市千秋2-297-1
長岡赤十字病院 人事課

TEL 0258-28-3600
Mail jinji@nagaoka.jrc.or.jp